**校長　木村　雅昭**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校****「つなぐチカラ」（知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ）**を育むことで、社会に貢献する人を育てる。１．多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ（夢を叶える）」学校をめざす。２．多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。３．「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。** \*学校生活満足度（学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成30年度69％）を2021年度には80％以上をめざす。**１．夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）**　（１）　**生徒の達成感のある授業**をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業充実に取り組む。　　ア　授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業充実に取り組む。「安全で安心な授業環境づくり」として、「授業の決まり」を徹底し、コアカリキュラムの探究型学習をはじめ、「深い学び」のある授業をめざす。　　　＊生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度（平成30年度64％）を2021年度には72％以上をめざす。　　　＊生徒向け学校教育自己診断における選択科目の満足度（平成30年度80%）を引き続き80％以上を維持する。　（２）希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成　　ア「総合的な学習の時間」やLHRの時間に、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図る。　　　　そのため、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。　　　＊生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度（平成30年度72%）を2021度には75％以上をめざす。　　　＊学校斡旋就職率100%、希望する大学・短大・専門学校への進路実現率95%を維持する。**２．　文化をつなぐ（「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成）**　（１）総合的な学習の時間やLHRで人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。　　ア「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、「日本人生徒」との共生を図る。　　　＊生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率（平成30年度80%）を引き続き80％以上を維持する。　　　　　　　　　　**３．地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）**　（１）**生徒の納得感のある指導**により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。　　ア　全教職員で生徒の基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかり、安全で安心な学びの空間を作る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。　　　＊生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的生活習慣に関する項目の肯定率（平成30年度70%）を2021年度には75%以上をめざす。　　　＊保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率（平成30年度74%）を2021年度には80%にする。　イ「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。　　　＊生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度（平成30年度54%）を2021度には55%にする。　（２）**生徒の充実感のある学校行事や部活動**を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。　　　　ア　学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。　　　＊生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度（平成30年度76%）を2021年度には80％以上をめざす。　　イ　部活動の活性化に継続的に取り組む。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＊部活動加入率は50%以上をめざす。　（３）地域連携　　ア　学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。　　　＊近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| 生徒ファースト | 「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動 | 「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感」を基本的な考え方として、安全安心な授業環境づくりを行い、一人ひとりの生徒の多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。 | 学校生活満足度（学校に行くのが楽しい・自分のクラスは楽しい、平成30年度69％）を平成31年度には72％以上をめざす。 |  |
| １． 夢をつなぐ（確かな学力と進路実現） | (1)テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実の取り組みア　授業アンケート、授業充実研修等を活用した授業充実の取り組みイICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究(2)希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成 | (1) ア・「授業アンケート」を分析して課題を把握し、授業改善を継続する。イ・授業充実研修でICTを活用した授業、「深い学び」を実践例とした研修を実施し、相互研鑚の場とする。(2)ア・進学希望先に応じた小論文や面接指導の実施。・模擬面接、インターンシップ等を充実させる。・1年時から生徒の進路希望を把握し、進学講習体制を確立する。ィ・コアカリキュラムを通じて、キャリアガイダンスを充実させる。3年間に実施する各種説明会や進路体験学習を充実させる。 | (1)ア・「授業アンケート」の「教材活用」に関する肯定的意見80%を維持（平成30年度80%）・生徒向け学校教育自己診断の選択科目に関する満足度80％以上をめざす。（平成30年度76％）授業に関する満足度70％以上をめざす。（平成30年度64％）(2)ア・生徒の希望する進路の実現率95%を維持。（平成30年度98.7％）イ・1回目の就職試験合格率70%以上を維持。（平成30年度74.1％）学校斡旋就職希望者の就職率100%（平成30年度100％） | 　 |
| ２．文化をつなぐ（「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成） | 1. 人権教育のさら

なる充実ア「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒」との共生 | (1)ア「総合的な学習の時間」やLHRで人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解公演を2回実施する。1年生は中国文化理解LHRで中国等帰国生徒の卒業生との交流や中国食文化の体験などを行う。 | (1)ア　生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率85％以上をめざす。平成30年度80%） |  |
| ３．地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり） | 1. 生徒の規範意識

の醸成と個々の生徒への支援ア　基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成イ　教育相談のさらなる充実(2)生徒の自主性、自己有用感の醸成ア　生徒会活動のさらなる充実イ　部活動のさらなる活性化(3)地域連携ア　地域から信頼される学校づくり（4）チーム学校ア　外部機関との連携イ　働き方改革を意識し,業務の適正化と組織的・効率的な学校運営 | (1)ア・全教員による登校指導の継続実施　・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立させる。イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。・「高校生活支援カード」を活用し教育支援委員会（週1回）において、課題を抱える生徒の状況を把握し支援を行う。課題を抱える生徒フォローアップ事業などによるSC,SSWとの連携を密にし、生徒支援を行う。また、必要に応じて「個別の教育支援計画」の作成、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。(2)ア・体育祭、文化祭の企画運営、学校説明会等での活躍の場を一層増やし、生徒会役員をリーダーに据える。イ・新入生オリエンテーション、体験入部を実施。・中高連携の部活動交流を行う。　・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。(3)ア・改編・広報PTコア会議（週1回）を実施し、総合学科の教育内容の充実をはかり、広報活動を組織的に行う。イ・地域のイベント等への積極的参加　・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加　・中高連携、地域連携授業をさらに充実させ、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。（4）ア・SC,SSWや外部機関と連携し、組織的な生徒支援を行う。イ・働き方改革を意識し、成美マニュアル（仮称）を活用し、チーム成美として組織的な学校運営をめざす。 | (1)ア・生徒一人当たりの遅刻回数5回以下（平成30年度6.8回）　・生徒の懲戒件数15件（平成30年度27件）　・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定度72％以上（平成30年度70%）イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率55%（平成30年度54%）(2)ア　生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動に関する肯定度80％以上をめざす。（平成30年度74%）イ・部活動加入率50%をめざす。（平成30年度42.1%）　・大会やコンクールの入賞数10以上（平成29年度47）　・中高連携部活動交流5回以上（平成30年度10回）(3)ア・近隣中学校の訪問5回以上実施（平成30年度9回）イ・地域のイベント参加数25件以上（平成30年度33回）　・校区一斉清掃活動などの参加各15名以上（平成30年度6名）・HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度70％以上をめざす。（平成30年度68％）（4）「成美マニュアル（仮称）」の読み合わせを丁寧に行い、チーム成美として組織的に動く。 |  |